

共働き家族の研究(2) — 夫婦関係

お茶女大家政 袖井孝子 佐野志津子 ○鈴木千穂子
青葉女短大 長津美代子

〈目的〉 本研究では、共働き家族の夫婦関係を明らかにするために、(1)夫婦の役割分担の状況、(2)結婚満足度の規定要因を、妻の就業形態別に比較する。

〈研究方法〉 (1)調査方法及び分析方法……共働き家族の研究(1)に同じ。(2)結婚満足度の測定方法……Stinnettらが、情緒的・精神的側面に焦点を当てて作成し用いた *Marital Need Satisfaction Scale* から、日本の夫婦に適用可能な質問を11項目選り出し、新たに2項目を加えた尺度を用いた。回答は、「はい」「どちらともいえない」「いいえ」を設定し、それぞれ、2点、1点、0点とし、13項目の回答の合計点を結婚満足度得点とした。満点は26点、最低点は0点である。

〈調査結果の分析〉 (1)夫婦の役割分担の状況……①共働き夫婦の夫の方が、妻が専業主婦である場合に比べ、家事・育児の分担の割合は高くなっている。②しかし、夫・妻の分担状況を比べると、共働き・非共働きどちらの場合でも、妻が家事・育児の大半の担い手であることに変わりはない。(2)結婚満足度の規定要因……①結婚満足度は妻が働いているか否かでは規定されない。②夫と妻の得点の相関は極めて高い。③年齢・家族構成等、基本的属性に規定されることは少ない。④階層帰属意識が高いほど、結婚満足度は高い傾向がある。⑤夫の家事・育児分担の割合が高くなるほど、妻の結婚満足度は高くなる。⑥家族が、一緒に過ごす時間が長いほど、夫・妻共に結婚満足度が高くなる。⑦結婚満足度を最も強く規定するのは、夫婦の会話時間の多さである。